世界俳句協会Zoom大会二〇二一

参加報告

竹梵

このたび、九月二十五日の午後三時から午後六時半（日本時間）、並びに十月三日の午前六時から午前九時（日本時間）の二回に分けて、世界俳句協会の初の試みである、Zoomでの会議が行われた。世界十五ヶ国の俳句詩人が時差の壁を越えて、それぞれの近況と各国のコロナの状況を報告し、自作の詩を各国の母語および英語・フランス語・中国語などで発表し合う、画期的な試みとなった。以下、朗読のあった句作をピックアップしつつ、その概要を報告する（尚、各俳句詩人が朗読した全句作は後段にて記載）。

　参加した詩人は、国籍ベースで日本・中国・ベトナム・マレーシア・モンゴル・ネパール・ブルガリア・ハンガリー・フランス・セントルシア・ブラジル・米国・カナダ・オーストラリア・ニュージーランドの十五ヶ国総計二十八名。世界的なパンデミックが災いし、四・五名の俳句詩人が母国に帰る機会を奪われ、それぞれの滞在国で参加したのも特徴的であった。

　中国から今回初参加した、陳冠宇は陝西省の蘭州の学生寮で専ら過ごす時間が増える中、漢詩の詩作や中国語・日本語での句作に励んでいる。以下の作品には、その学生寮での孤独で短調で長い時間の経過と、だからこそ濃密に感じられる春の夜を巧みに表現している。

粘稠な時針に回る春の夜

獨坐聽時針

無窮輪轉夜沉沉

傷哉又一春　　　　　　　陳冠宇

台湾高雄市在住のJodie Hawthorneは、パンデミックで母国のオーストラリアに帰れないことを嘆きいていた。以下の句作では孤立する人々と変わらず自由な自然の風物を対比的に描き出している。

寂寞的我

寂寞的你

快樂的麻雀

lonely me

lonely you

a happy sparrow 　　　　Jodie Hawthorne

　フランス在住のベトナム女性俳人Tuy Nga Brignol (En'gane)。「パンデミックの中にもさまざまな機会がある」とコメントした上で、以下の句作を披露。「待たば回路の日和あり」といったところか、暗い世相の中での将来の明るい展望に思いを寄せる。

　　　Chiếc thuyền bườm chờ đợi

sự xuất hiện của gió tốt lành

để nhổ neo lên đường

Voilier en attente

de la venue du bon vent

pour lever l’ancre

Sailboat waiting

For the good wind

To weigh anchor  Tuy Nga Brignol

マレーシア在住のAngelina Bong。観光立国マレーシアも通関の自由化はほど遠い状況と語っていたが、以下の句作は未だ見ぬ熱帯のノスタルジーに異邦人を導いてくれる。

　　Bougainvilleas

Rusty walls

Childhood neighbourhood　　Angelina Bong

ブーゲンビリア／錆びた壁／子供のころの近所

（夏石番矢訳）

　モンゴルのTuvshinzaya Nergui。一転して寒風に舞い上がる木の葉を描写。その中に平安を見出す作者。コロナを象徴しているのだろうか、変事や風雨の中に静寂を見出す仏教的とも思える、世の観相が垣間見えて面白い。

чиний үгс

навчистай хамт үймрэх-

жихүүн намар

I found peace

among the haunting leaves-

cold wind 　　　　　Tuvshinzaya Nergu

ドイツの大学で教鞭をとっている、岩脇リーベル豊美。コロナ禍での学生の距離に取り方に戸惑いつつも、「今やドイツ人が日本人のようにマスクを着用し、ハグや握手に替えてお辞儀をするようになった。日本化が進んでいる」とのユーモラスな近況報告で、参加者の笑いをとった。今か今かと日常の復活を待つそのメッセージ。

**復活せよ　地下室に天使のトランペット**

フランス人Georges Friedenkraftが朗読した一句。ニューロバイオロジーで動物の感情を研究している彼の句は、水に浸かる柳の実存、そして労苦に対する人の共感、そして動物である猫の共感を詠唱している。芭蕉の猿蓑を研究しているという同氏は、フランス語でも五―七―五の音韻で作句しているというが、その韻律の美しさに相まって、その句からは印象派の絵画のようなイメージが想起される。

Pourquoi d’être saule

pleurerais-je ? Le chat miaule

aux rides de l’eau Georges Friedenkraft

Wherefore the willow

I should weep: the cat does mew

ripples on water (Brian Fergusson英訳）

ブルガリア人で現在ポルトガルにて教鞭をとる、Zlatka Timenovaの一句。「ポルトガルでも人との付き合いが希薄となり、町は沈黙が支配し、時に孤独も感じる」と語っていた彼女。黄色い落ち葉に覆われた何気ない日常に現れた、鴉という突然の闖入者。この鴉は一体何をもたらすのだろう。吉事か凶事か、未知の災厄か？読者に予断を許さない緊張した空白を残して、この句は突然終わる。

　　jardin couvert

de feuilles jaunes

soudain…ce corbeau

jardim coberto

de folhas amarelas

de repente…um corvo 　Zlatka Timenova

黄葉に／おおわれた庭／突然、この鴉

（夏石番矢訳）

カリブ海の島国セントルシアから、通信事情の影響か途切れがちの音声で参加したのは、Germina Melius。ロックダウンで観光業が主産業となっている島の経済は大打撃を受けているとのことだが、以下の句などはそうしたコロナ禍の経済状況を彷彿とさせてくれる。客足が途絶え、苦境に立たされた住民だけが残る島では、マンゴーでさえもはや「遺物」になってしまったのだろうか。

consumers in my garden

birds without money

leave mango relics

comen las frutas en mi jardín

los pájaros sin dinero

dejan la piel y semilla del mango

Germina Melius

 庭に消費者／無一文の鳥たち／マンゴーの遺物残す

（夏石番矢訳）

ブラジル人のCarlos Viegas。同国のパンデミックはまだ収束を見ていないという。仏教徒でもある彼の次の一句は、この状況下での孤独の矜持を謳い上げると共に、環境の全く異なる大地の風景の中に、どこか芭蕉の「寂び」さえ、感じさせる。

winter's full moon

illuminates the savannah

a lonely howl　　　　　　　　 Carlos Viegas

カナダ太平洋側岸の都市ビクトリアから参加したMichael Dudley。同地でもロックダウンやシャットダウンが今まで続いてきて、時に孤独感も味わったという彼の一句。何気ない自然の光景。泥道にぐちゃぐちゃと残された足跡の抽象文様。熟しきった桑の実。それを夏のギャラリーという言葉で整理する。行き届いたサラリとした表現が爽快である。

summer gallery

footpath *splatter* abstract

     of *burst* mulberries　　　　　　　　　　Michael Dudley

奥さんがコロンビア人でニュージーランドに居住するRon Riddell 。以前は頻繁に両地を行き来していたものの、パンデミック以降それが難しくなったという。同地でももはや対面での俳句のイベントは望み薄という彼が、俳句を通じた交流の喜びを表現した一句。

gift of haiku

flies over oceans, mountains

reaches me in time Ron Riddell

日本の参加者の朗読句を次に紹介。家で過ごすことが圧倒的に多くなった中で、人との交流の大切さを実感したという鎌倉佐弓。しみじみとした家族への情愛のこもった一句。食卓の浅蜊が家族をほのぼのとした微光に包む。

夫へと差しだす浅蜊、砂、微光

I present to my husband:

littleneck clams,

sand, and a faint light 　　　鎌倉佐弓

その句集の中で、非常に感受性豊かな数多くの句を披露している、乾佐伎。今回朗読した句でも、持前の清澄な感受性を披露。

触れそうな手と手の間の冬銀河

A winter galaxy

between two hands

about to touch　　　　　　　　乾佐伎

「コロナの惨禍の中で、人のことを思いやる機運が生まれたのはポジティブな側面。それまでの自分第一主義からの転換で大きな進歩でもある」と語る、古田嘉彦の句。

地下鉄の線路を来る白鯨とウィルス

A white whale

and viruses come

along the subway tracks　　　古田嘉彦

コロナ禍でお孫さんのお世話を含め、公私ともに寧ろ忙しくなったという、紅玉夏生。お孫さんの尚之介君に俳句を教授している、と語るその顔には孫煩悩な表情も覗かせる。今年の夏はパンデミックに加えて、温暖化の影響か、水害や土砂崩れも多発した。そんな世相を詠んだ一句。

山津波特撮のごと映りをり　　　　 紅玉夏生

　今回のオンラインミーティングで最年少の参加となった。その尚之介君の可愛らしい一句。元気にはっきりとした声で読み上げてくれた。

しゃくとり虫くねくね動いてダンスして　福田尚之介

清水国治は見事な俳画を添えて以下の句を披露した。

Being together

side by side

so easy for birds　　　　　　　　　清水国治

　山口県で種田山頭火関連の雑誌の編集に携わっている佐川智恵美。コロナ禍でもオンラインの句会を主催して、継続しているという彼女は、水道の蛇口から流れ出る水の解放感、そして晴れた日の朝の解放感を次の句で高らかに謳い上げる。

晴れて開けはなつ朝の蛇口　　　　　　佐川智恵美

私事、竹梵は畳語のリズム感が、漢語俳句でも表現できないかと腐心した。コロナで閉塞した世の中でも、身近でミクロな世界に、考慮に値するものが存在していることを表現したかった次第である。

たなごころ露ころころと天地凪ぐ

粒露團團玩掌里、湖波閃閃静乾坤。

In my palm

a rolling dew,

the universe is stable　　　　　 　竹梵

原詩夏至は、七夕の邂逅が望み薄となった雨の夜にそれでも、ちらちらと傘を傾げて、好天の回復を期待する心情を巧みに詠んでいる。真に願うのは、気の置けない人々との、心ゆくまでの再会であろうか。

傘傾げをり星合の夜の雨に

Tilting a bit an umbrella

To see the Star Festival unseen

In the embarrassed night rain.　　原詩夏至

東京を少し離れた郊外で田舎暮らしをしているエドワード・レビンソンは、コロナ以降、句会やイベントで都内に行く機会がめっきり減ったという。髭の伸び放題になり、はや仙人の域に到達したのだろうか。

fall clouds

　　sage’s beard grows

time flows

秋の雲賢者の髭伸び時流る エドワード・レビンソン

　　二〇二一年五月に句集『落とし物だらけの人生』を上梓した子伯は、句集にも掲載されている次の句を朗読した。パンデミックを含めたさまざま災禍と苦悩に満ちた、修羅の世の中で、人はそれでも希望を持ち続けることができるのか。答えはこの句にある。

みな修羅。胸に、蛍　　　　　　　　　子伯

そして最後は、世界俳句協会理事長夏石番矢の句を紹介する。九月二十五日の会合で夏石は、句作においてもRadicalに根本から考えることの大切さを強調する。

阿呆の王から眼帯のようなマスクが届く

I received

a mask like an eye patch

from the King of fools

肺で知るの地上と瑠璃のそら

With lungs I discern

the sandy ground

and azaure sky

Avec les poumons

J e discerne le sol sableux

et le ciel azur　　　　　　　　　　　夏石番矢

夏石の眼は、現状のラディカルな批判にとどまらず、次に来たるべき世界も俯瞰的に見据えようとする。

法王空飛ぶすべての枯れた薔薇のため

Il Papa volante

per tutte

le rose appassite

The Pope flying

for all

the withered roses　　　　　　　　夏石番矢

十月三日の会合で夏石は、「パンデミックは日常生活を深く考え直す良い機会になった。パンデミックのパンはギリシャ語起源で、パンテオン（万神殿）というように全てのという意味。パンデミックは世界全ての人にとっての共通の脅威となったが、人類の共通項として語ることができる話題でもある」と述べた後、「次号の『世界俳句２０２２　第１８号』はOut of the Pandemic(パンデミックから)としたい」と述べた。

　今回の二回にわたるオンラインの会合はテクノロジーの進化に支えられ、地球を一周したほぼ全ての大陸の俳句詩人が一同に会し、自作を発表しあう、画期的な試みとなった。コロナの動向の如何にかかわらず、この試みが継続的に行われることに期待したい。

**参照：**

第１回世界俳句協会Zoomミィーティング２０２１動画／The 1st WHA Zoom Meeting 2021 Video

２０２１年９月２５日（日本時間）／25 October 2021 (Japan Time)

<https://youtu.be/z28pQDJO_qc>

第2回世界俳句協会Zoomミィーティング２０２１動画／The 2nd WHA Zoom Meeting 2021 Video

２０２１年１０月３日（日本時間）／3 October 2021 (Japan Time)

<https://youtu.be/AFQCT3eXi80>